

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年7月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1571700192		
法人名	社会福祉法人 ごせん福祉会		
事業所名	グループホーム すもとの里		
所在地	新潟県五泉市論瀬5975 - 12 (電話) 0250 - 43 - 5107		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	5月29日

【情報提供票より】( 21 年 3 月 15 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人、非常勤 0 人、常勤換算 7....	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階	建ての	2 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 370 円
	夕食	250 円	おやつ 円
	または1日あたり		780 円

### (4) 利用者の概要 ( 20 年 12 月現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 88.2 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南部郷病院、小林歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街から少し離れた田園地域にあり、四季折々の風情を感じられる環境である。同法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービス、生活支援ハウス等と同じ建物の2階に位置しており、利用者の状況に応じてスムーズに住み替えを支援するなど全体として連携が図られている。また、往診など医療との連携体制も確立されている。看取り支援にも徐々に取り組んできており、今後もターミナルケアに取り組む意向である。  
利用者は5年以上暮らしている方が半数以上で、職員とも馴染みの関係ができており、穏やかに生活している。利用者と職員と一緒に作る食事は、旬の野菜や季節の食材、地域の特産品を使用し、彩りも良く、利用者の一歩の楽しみになっている。  
法人としてISOの認証を得ており、管理者の専門的知識も高い。今後は地域のグループホーム全体におけるサービスの質の向上に向けて、中核となって取り組んでいくことが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は職員会議で報告し、全職員で検討し改善に取り組んでいる。「地域密着型サービスとしての理念」を作成すると共に、その実践について日常的に話し合ったりアイデアを出し合うなどしている。「理念の地域への浸透」については、地域行事に参加することで少しずつ取り組み始めており、今後もその方策について検討していく意向である。「マニュアルの整備」や「研修への参加」、「事故発生時の対応」についても職員会議等で検討し、マニュアルの見直しや研修の実施など、取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員で回覧し、グループホームに求められている機能を項目から理解すると共に、日々提供しているサービスの内容を振り返る機会とした。職員がそれぞれ自己評価票を記入し、全体会議で意見交換して、管理者がまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>利用者代表、家族代表、民生委員、地域住民、市の担当職員、包括支援センター職員で構成されている。利用者の状況や、日常的な取り組み報告、行事案内、避難訓練、外部評価の結果報告と改善策等について話し合っている。利用者の退所や入院もなく状況が落ち着いており、定期的な開催に検討課題が少ない状況にあって開催数も少ない。今後はより地域の情報を得る機会としたり、メンバーから運営への積極的な意見を得るなどしてサービスの向上に活用することを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、入居時に本人・家族に説明している。玄関にも案内の掲示は行っているが、今までに苦情が寄せられたことはない。年1回実施するアンケートや面会時の家族との会話から、個々のケアへの要望等を把握している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎日買い物や散歩に出かけたり、地域の敬老会へ出席することで、地域の人々と交流を図っている。隣接する生活支援ハウスの入居者とは、食べ物等のおすそ分けやお茶飲みを行い、近所の住民としての付き合いをしている。また、特別養護老人ホームやデイサービスに幼稚園児や小学生、ボランティアの慰問がある時は一緒に参加し交流している。法人主催の納涼祭や芸能祭など、地域住民が多数来てくれる行事にも参加したり、バザーを開くなどして交流の機会を持つよう努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着型サービスとして位置付けられた際に、管理者・職員で検討を行い、利用者が家族や地域の一員であり続けられるよう、家族や地域との関係性の継続を大切に支援するという主旨の理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念をもとにさらに具体的な方針を検討し、日々の中でその方針に立ち返って話し合いながら、実践に取り組んでいる		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	地域密着型サービスとしての「理念」と「方針」を、玄関に大きく分かりやすく掲示するとともに、広報誌等に記載し、家族の理解浸透に取り組んでいる。地域に対しては、ホームが特別養護老人ホームの2階に位置していることもあり、地域住民が気軽に来所できる環境にないため、ホーム自体が認識されていない状況にある。		ホームの特性や機能について理解してもらえるよう地域向けの広報誌回覧や配布を行うなど、利用者が地域住民としての役割を担いながら地域で暮らし続けることを支援するというホームの理念を、地域に向けて発信していく取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日買い物や散歩に出かけたり、地域の敬老会へ出席することで、地域の人々と交流を図っている。隣接する生活支援ハウスの入居者とは、食べ物等のおすそ分けやお茶飲みを行い、近所の住民としての付き合いをしている。また、特別養護老人ホームやデイサービスに幼稚園児や小学生、ボランティアの慰問がある時は一緒に参加し交流している。法人主催の納涼祭や芸能祭など、地域住民が多数来てくれる行事にも参加したり、バザーを開くなどして交流の機会を持つよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回のサービス評価にあたっては自己評価票を全職員で回覧し、グループホームに求められている機能を項目から理解すると共に、日々提供しているサービスの内容を振り返る機会とした。職員がそれぞれ自己評価票を記入し、全体会議で意見交換して、管理者がまとめた。前回の外部評価結果も内容を検討し、全職員で改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、民生委員、地域住民、市の担当者、地域包括支援センター職員で構成されている。利用者の状況や、日々の取り組み報告、行事案内、避難訓練、外部評価の結果報告と改善策等を話題としている。利用者は退居や入院もなく穏やかな暮らしが継続できていることもあり、定期的な開催の中では行事内容の報告などが主となる傾向があり、積極的な意見交換には至っていない。		利用者が地域住民の一員として地域の中での生活を継続するためには、地域住民の理解と協力が不可欠である。馴染みの関係づくりや、地域に出向く手段、ホームが担える地域での役割の実践、ホームが持つ認知症介護の専門性の還元など、地域密着型サービスとしてのさらなる質の向上のために、運営推進会議のより積極的な活用を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市の担当者が来所する等の機会はないが、昨年度は実地指導を受け、情報収集や意見交換の機会とした。福祉サービス事業所が参集する地域ケア会議等は定期的開催されているが、グループホームは参加対象となっていない。		同業者との定期的な情報交換の開催を市に要請しているが、同時に地域全体の福祉サービスの実施状況や住民の要望を収集するために、地域ケア会議等への参加を働きかけてはどうか。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止について指針を示しており、また、「リスクマネジメント委員会」で虐待や身体拘束の防止について検討している。この委員会にはホーム管理者も参加して虐待関連法への理解を深め、内部研修会など学ぶ機会を持ち具体的な行為について確認するなど、日常的に虐待を見逃すことのないよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、担当職員から家族へ利用者の暮らしぶりを手紙で伝えており、その際に、写真、預り金の出納明細や領収書、行事案内、ホームのお便りを同封している。健康状態などに変化があった場合は、必要に応じてその都度報告している。職員の異動については面会時やお便りで知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、入居時に本人・家族に説明している。玄関にも案内の掲示は行っているが、今までに苦情が寄せられたことはない。年1回実施するアンケートや面会時の家族との会話から、個々のケアへの要望等を把握している。		日々の面会時に利用者の要望や暮らし方への意向を家族から聞き取りを行っているが、今後も、家族同士で話し合う機会や、より意見を引き出せる機会づくりを検討し、家族等の意見をホームの運営に反映する取り組みを期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の様子を見ながら声をかけるなどし、常に職員が意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、全体会議も開催し、積極的に意見交換を行う場としている。職員からの意見は主に利用者のケアに対するもので、検討のうえ採り入れている。法人として各種委員会があり、管理者・職員がそれぞれ委員になっているが、ホームからの意見が積極的に反映されるという状況にはない。		法人全体の中でグループホームの理解や、地域密着型サービスとしての求められる機能を更に周知して頂き、看取りにおける医療体制への協力など、職員の意見が反映され、より質の高いサービスの実践に取り組んでいくことを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームが職員と利用者の馴染みの関係が必要であることを運営者は理解しているが、法人の運営上異動は避けられない状況にある。異動などの際は、利用者や職員とで送別会を開催して送り出し、利用者が自然に理解し受け入れられるようにしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	「介護業務マニュアル」「苦情相談マニュアル」「感染症マニュアル」など各マニュアルがあり、職員がいつでも確認できるように整備されている。必要に応じて見直しを行い、見直したマニュアルは全職員で確認し、周知徹底を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での年間研修計画立案や職員の目標管理を行い、段階に応じた研修の実施・参加をしている。内部研修は、法人で行うもののほか、ホームでも月に1回の全体会議でテーマを設定して研修会を実施している。外部研修にも出来るだけ参加し、参加した職員は伝達研修を行い情報共有を図っている。資格取得のための研修にも、勤務調整を行って参加を支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの相互研修を実施し、情報収集したり、介護技術、認知症ケアの方法を学ぶ機会としている。管理者・職員ともに日常のケアを振り返り、新たな気づきやヒントを得る良い機会と捉えている。現在、交流が行われているグループホームは1か所であり、定期的な開催やネットワーク作りには至ってないため、管理者・職員ともに学習会や相互訪問の実現を望んでいる。		近隣のグループホームとのネットワーク作りに取り組み、定期的な学習会、相互研修を積み重ねることで、よりサービスの質の向上に活用してほしい。また、地域住民に対し、地域密着型サービスへの理解浸透に向けた働きかけ、専門性の提供などを他ホームと一緒に実践するなど、地域全体のサービスの質を底上げしていく活動にも、中心となって取り組んでほしい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の様子に気を配り、さり気なく声をかけるなどしており、職員と管理者は気軽に話せる関係にある。ケアをしている中で利用者との関係が上手くいかない時は、自然な形で他の職員が交代するなどチームで連携している。また、職員同士で食事に行くなど良い関係が出来ている。休憩室でしっかり休憩時間を確保することもでき、リフレッシュが図られている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前訪問したり、他のサービス利用中に本人と面接するなど、顔なじみの関係づくりをしている。入居後も、家族の面会を多くしてもらったり、自宅への外泊をするなど、本人の不安を軽減できるように家族と相談しながら支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	バザーに向けての作品作りを一緒に行ったり、郷土料理、漬物作り、伝統行事などを利用者から学んでいる。また、温泉に行ったりショーを観に行くなどの体験を通して利用者の喜びや思いを引き出したり、新たな発見や気づきを得て、サービスに活かしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の暮らしぶりを毎月担当職員が手紙でお知らせし、その中で利用者の家族への思いなども伝えている。面会時や通院時なども、健康管理や利用者の意向などについて家族と気軽に意見交換、情報共有し、今後の支援のあり方を一緒に考えている。また、誕生会には出来るだけ家族にも参加してもらい、利用者、職員と喜びを共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を表した本人の言葉をそのまま記載し、把握に努めている。また、ホームでの生活が長い利用者もあり、職員との間に馴染みの関係が出来ており、言葉に表出できなくても表情や仕草、生活歴等の情報などからくみ取るようにしている。新しく入居した利用者には細やかに関わりを持ち、意向の把握に取り組んでいる。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問時のほか、家族の面会時等にこれまでの暮らし方を確認している。また、入居前に利用していたサービス事業所から情報収集もしている。本人との何気ない会話の中や、持ち込まれた思い出の品についての話題などからも引き出せるようにしている。平成21年度は、センター方式のアセスメント様式を活用することを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	MDS方式アセスメントで課題分析を行い、計画作成担当者が、居室担当職員と一緒に介護計画を作成している。作成した原案は全体会議で更に検討し、正式な計画を作成するという手順になっている。課題分析は出来ているが、本人・家族がホームでどのような暮らしを望んでいるか、十分な話し合いの機会がなく、意向の反映が少ない。		介護計画は本人がその人らしく、より自立した生活をおくるための要となるものであり、本人・家族、関係者と十分検討して作成を行い、統一したチームケアの実践に取り組むことを期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回担当職員が介護計画の評価・見直しを行い、全体会議の中で他の職員の気づきや意見を聴取し、計画作成担当者と共に新たな介護計画を作成している。状態変化が生じた場合はその都度検討して見直している。介護計画は全職員がいつでも確認できるように整備しており、重要な変更点はマーカーで印をつけ、より重点的に周知を図るよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の望むかかりつけ医の受診、馴染みの理美容室の利用支援、デイサービス利用者や生活支援ハウス入居者との交流、外泊や外出、利用者家族とのカラオケ大会など、その時々々の要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があれば、入所以前からのかかりつけ医への継続受診も支援している。基本的に受診は家族にお願いしているが、受診時にはホームでの状況を家族に申し送り、受診後には医師からの指示等を家族と共有して、健康管理に活かしている。また、併設特別養護老人ホームの嘱託医による往診を受けることも可能で、状態に応じて対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、本人・家族の希望に応じて終末期までホームで過ごすことができ、過去にホームで最期を迎えた方もいる。希望する家族とは同意書の取り交わしを行っているが、契約書や重要事項説明書などに「看取りに対する指針」は示されていない。		ホームとしての「看取りに対する指針」を全ての利用者・家族・かかりつけ医に示し、早い時期から方針を共有することで、本人や家族の不安を軽減するとともに、チームとして意識統一を図り、最期までその人らしく暮らせるよう支援することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	5年以上ホームで暮らす利用者が半数以上いることもあり、落ち着いた環境の中で職員との馴染みの関係が確立しているが、時として言葉がけなどが慣れ合いになってしまうこともある。また、食堂脇のトイレの扉を開け放した状態で排泄誘導を行う場面が見受けられた。個人情報については利用者の目の届かない棚に保管されている。		グループホームの機能には職員との馴染みの関係が求められているが、日々のケアを振り返ったり、職員間での気づきを話し合う機会を持ち、よりいっそうのプライバシーの確保に取り組んでほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事作りに時間がかかるなど職員の業務の都合が優先する場面が見受けられ、また、「後でね」「待っててね」という職員の声が少なからず聞こえる状況がある。		職員のペースになりがちであるという状況は管理者も課題であると認識している。限られた職員数の中で、すべてにおいて利用者のペースに合わせることは難しいが、より利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう、さらなる支援に取り組むことを期待したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食事当番が、利用者の希望を取り入れて献立を作り、また、利用者と一緒に買い物や調理を行っている。茶碗や器も料理に合わせて選択し、季節の食材を使い、彩りも工夫している。食事前の感謝の気持ちを利用者が述べて食事が始まり、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。後片付けも利用者と職員と一緒にやっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、一人ひとりの能力や状態に応じて時間誘導や声かけを行っている。夜間は安心して眠れるように紙パンツを着用している利用者もいるが、日中はほとんどの利用者が布パンツを使用しており、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のおおよその曜日や時間帯は決めているが、希望があれば毎日の入浴や夜間入浴にも対応している。仲の良い利用者同士で入浴を楽しめるよう支援したり、夜間眠れない方には就寝前の入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚の世話やホールのモップ掛け、畑仕事、食事の後片付けなど、一人ひとりの希望や能力を引き出し、それに応じた役割を担うことで生きがいのある暮らしを支援している。貼り絵作りや毎日の日記、温泉・足湯に出かけたり、フランス料理のコースを頂くなど、多様な楽しみごとを提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望を踏まえて、散歩や買物には毎日出かけている。併設のデイサービスに知人が利用するときには面会に行ったり、広い中庭で植物に触れたり、隣接する生活支援ハウスへ気軽にお茶飲みに出かけるなど、ホームの中だけで過ごすことのないよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束の対象となる具体的な行為について内部研修を行い、全職員が正しく理解しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることはなく、小さなベルにより出入りを察知している。全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者一人ひとりの様子や外出傾向を把握して付き添うなど、鍵のかけないケアに取り組んでいる。また、併設事業所との協力体制ができており、利用者がグループホームを出た場合他事業所の職員が知らせてくれる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書を整備し、事故防止への取り組みは行っているが、同一利用者による転倒が繰り返し見受けられる。また、浴室内に手すりの設置がなく、転倒の危険性がある。		利用者の重度化と機能低下に伴い常に見守りが必要な状況にあるが、一人ひとりの状態を全職員で把握し、事故に対する対応策の検討と実施、再評価を今後も充実させ、再発防止へのよりいっそうの取り組みを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時の連絡体制と対応マニュアルが整備され、職員に周知されている。併設施設の看護師の協力で研修会を実施するとともに、年1回は地域の消防署での救急手当の講習会に参加している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	法人全体で地域の婦人部、消防署の協力を得て、定期的に消防訓練を実施している。夜間帯は職員が一人になるため、地域の協力が得られるように運営推進会議等で協力を依頼している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して、食事と水分の摂取量の把握を行っている。利用者一人ひとりの咀嚼力や嚥下状況に応じて、刻み食にしたりトロミをつけて対応している。便秘のときなどは繊維質の多い食材を取り入れるなど工夫している。栄養バランスについては年1回法人の栄養士から助言を受けている。また、月に1回は体重測定を行い、健康管理に活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>特別養護老人ホームの2階に位置していることもあり、スペースは広く天井も高く、静かな落ち着いた空間になっている。玄関は引き戸を使用し、季節の花を活けるなど家庭的な雰囲気づくりを工夫している。食堂前の畳のスペースは茶ダンスやコタツなどを設置して、自宅の茶の間にいるような空間を作っており、利用者が自由にくつろいで過ごしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入口には、植物が描かれたプレートと、季節を感じる手作りの飾り付けが施され、親しみやすい雰囲気が作られている。居室内には、慣れ親しんだダンスやテーブル、思い出の写真や置物などが持ち込まれており、それぞれに居心地良く過ごせる部屋作りがされている。</p>		